

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	情報学科						
科目名	システムプログラム						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年次後期		
必修・選択の別	選択科目						
担当者	永井 秀利						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・C言語の基本を習得し、簡単なプログラムを書くことができる。 ・ライブラリ関数とシステムコールの違いを理解している。 ・プログラム言語を使ったOS固有の機能の使用法を理解している。 ・システムコールを使った簡単なプログラムを書くことができる。 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法 第2回：C言語入門（文法と制御構造の基本） 第3回：C言語入門（配列、文字列） 第4回：第2回～第3回の内容に関する演習 第5回：第4回の演習の解説、C言語入門（関数の利用と作成） 第6回：C言語入門（ポインタ） 第7回：第5回～第6回の内容に関する演習 第8回：第7回の演習の解説、 C言語入門（プリプロセッサ命令、構造体、ビット単位の論理演算）、システムコールとは 第9回：ファイルアクセスに関するシステムコールの利用 第10回：第8回～第9回の内容に関する演習 第11回：第10回の演習の解説、プロセスの生成と操作 第12回：パイプによるプロセス間通信 第13回：第11回～第12回の内容に関する演習 第14回：第13回の演習の解説、ソケットによるプロセス間通信 第15回：定期試験 第16回：ソケットによるプロセス間通信の演習</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習	40%					
授業到達目標の達成度	合格者については到達目標を概ね達成した。						
反省点	学科カリキュラムの都合により、C言語を初めて学ぶにもかかわらず入門レベルを超える内容まで学ぶ必要があることから、かなり難度の高い講義となっている。それゆえ演習が重要となるが、レポートでは全課題をこなせなかったケースが見受けられた。自宅演習を行うための1CD Linuxなどの紹介は行ったが、紹介だけでなく実際に配布するなどの対策を考えたい。						
来年度の計画	基本的には同内容とする。 事前にC言語を学んでいる学生のみを対象とするのでない限りは変更は難しい。						
授業評価アンケートに対するコメント	やむを得ず授業進行が速いため、予習・復習の程度と授業理解度とがそのままに対応しているように思う。受講者数は多くないので、自主学習を行いやすいように、1CD Linux配布などを考えたい。						
履修登録者数	9名	定期試験 受験者数	3名	合格者数	3名	合格率	100%